

はにい 夢のかけら

平成29年5月29日

段ボールの山を見て、子ども達は思わず立ち上がり、飛び跳ねました。

先生はこの日まで、保護者に呼びかけて集めておいた大量の段ボールを隠しておいたのです。

「今日はみんなで、段ボールを変身させよう」「さあ、何ができるかな？」

先生の呼びかけで、つくりたい気持ちがあられてきます。



材料が大きくて一人では運べません。自然に共同作業が始まり、グループができます。

「あの木陰がいいね」「ウサギ小屋の隣にしようよ」思いついた場所で、思いついた活動が始まります。

自分たちでつくったものをつなぎ合わせるうちに、「ここに窓があったらいいね」「屋根をつくろうよ」アイデアが膨らみ、笑顔が広がりました。

突然、風が吹き始めました。大変です。段ボールがバタバタと音を立てます。ガムテープで木に固定しましたが、それでも上手くいきません。

「あのブロック使ってもいい?」「ひもを張ろうよ」必死に守ろうと、話し合う声も次第に大きくなります。



片付けの時間、壊したくないという子ども達の声が聞こえてきました。

みんなでつくり、みんなで守った大切な思い出です。

先生は、段ボールの破片を手に、「夢のかけらを集めて、思い出袋に思い出と一緒に入れようね」と呼びかけます。

「ねえ先生、夢のかけらをもって帰ってもいい?」次々に子ども達が先生の周りに集まって来ました。